放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和　4年　3月23日　　事業所名

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	25%	75%	外出の機会を多くしたりなど活動の幅を広げている。	スペースをより広く使えるために物の配置を変えたりしています。
	2	職員の配置数は適切である	75%	25%	利用数によって職員配置を変えたりしています。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	25%	75%	出入口の段差にスロープ設置はするも公共部分になるため多少問題があり。	車いすが通る時だけスロープを置き、迷惑にならないよう配慮しています。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	88%	13%	職員会議にて気付きメモ等で改善策を検討したりしている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	86%	14%	職員会議等で保護者の方のアンケート結果を検討し、業務改善に努めています。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	法人のHPにて公表しています。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	60%	40%		第三者による外部評価は行えていない状態です。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	75%	13%	定期的に内部研修、オンライン研修などを行っています。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	職員間で話し合い、意見を出し合って作成しています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	83%	17%	個人懇談を行わせていただき、課題分析しています。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	86%	14%		月間の活動プログラムを担当職員が原案を作成し、他職員が確認し新たな案を入れ完成させています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	季節によってのイベントもプログラムに入れたりしています。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	88%	13%	利用時間の長さに応じてプログラムを考えています。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	75%	25%	個々の障害特性等を配慮しながらサービス計画を作成しています。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	88%	13%	毎朝ミーティングを行い、1日の流れ、役割を確認しています。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	支援終了後必ずミーティングを行い、1日の振り返りを行っています。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	項目を細かく分けて日々の記録をしています。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	定期的に行っています。	会議などで話し合いを行い、より細かく計画を振り返り見直しをしていっています。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	86%	14%	個々の状態、障害特性を考慮しながら支援を行っています。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	83%	17%	児発管が中心となり、連絡を取り合っています。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	100%	0%	先生や保護者の方から確認したり、HPから情報を得たりしています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	71%	29%	保護者を通じての連絡体制となっています。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	88%	13%	保育所等へ見学へ行ったり、情報共有をしたりしている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	67%	33%	卒業後の通所事業所等へ支援内容等の情報をお伝えしています。	卒業後に通われる通所事業所へ支援内容の情報提供をしています。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	57%	43%	見学へ行かせてもらったりしています。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	13%	88%		現在コロナ禍で交流は難しい状況ですが、今後交流する機会があれば積極的に参加していきたい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	86%	14%	参加させていただいています。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	連絡帳、送迎時、電話等で随時連絡を取り合っています。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っている	83%	17%	ペアレントトレーニングは現在行っていません。	必要と感じた児童に対しては検討していけたらと思います。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時に説明させていただいています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	相談を受けた際は電話や直接話させていただいたりしています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	14%	86%		現在コロナ禍で保護者会などは実施していませんが今後検討していきたいと思います。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	苦情窓口の職員を配置し、対応しています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	第2わとともニュースという会報を毎月発行して保護者の方へお配りしています。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	十分注意して行っています。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	連絡ノートを毎利用ごとに活用しています。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%		現在行事に地域の方を招待することはできていないので、コロナが収束してくれば検討していきたいと思います。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	86%	14%	マニュアル策定してファイリングしています。	十分に周知徹底しているとはいえない為、今後しっかりと周知徹底できるよう工夫していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	火災時や土砂災害時に備えての避難訓練を定期的に行っています。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	75%	25%	定期的に虐待研修を行っています。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	63%	38%	身体拘束について説明した上で同意書を頂いています。やむを得ない場面について必要最小限の身体拘束を行う場合があることを支援計画に記載し、行った場合記録に残しています。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	75%	25%	面接時保護者の方から確認を取っています。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	ヒヤリハット報告書を作成し、日々のミーティング、会議等で共有しています。	